

平成31年度 授業改善推進プラン

第1学年 保健体育科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状

<定期考査や平成30年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活運動習慣等調査等からの分析>

- ・意欲的に取り組む生徒が多く、授業のねらいを達成しようと努力する生徒が多い。
- ・自分自身の体力、技術向上に向けて意欲的に取り組んでいる。少数の生徒は、運動に対する苦手意識から消極的な面がある。
- ・授業の規律や集団行動を意識して行動できる生徒が多い。
- ・個人種目においても仲間とコミュニケーションを取りながら取り組む姿が見られ、お互いにアドバイスし合いながら課題を解決できている。
- ・学習カードの提出が約85%と高く、学習の振り返りができている。
- ・新体力テストでは、握力、50m走、ハンドボール投げ、持久走に課題がある。
- ・知識を問われる定期考査では、知識が定着しきれていないところがある。
- ・授業アンケートで、その日の授業で「何を学ぶのか」目標をもって、真剣に取り組んでいますかの質問に対して「はい」「どちらかといえばはい」と答えた生徒が約87%と高い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・体力、技術向上に向けて、それぞれのレベルに合わせた目標を設定し、努力できる姿勢を育むこと。
- ・運動を苦手としている生徒が運動に対して親しみをもち、意欲的に運動に取り組むことができるようにすること。
- ・新体力テストの合計得点を全国平均と等しい、もしくは高くすること。
- ・低い傾向にあると考えられる握力、50m走、ハンドボール投げ、持久走を強化すること。
- ・実技や保健の学習において、授業で学習した基礎的、基本的な知識を定着させること。
- ・2学期以降も目的意識をもって授業に取り組むことができる姿勢を継続すること。

4 具体的な授業改善策

- ・レベルに応じた練習環境や課題を設定し、生徒の達成率を数値化して、できることや成長したことを実感させ、次回の授業への意欲につなげる。
- ・ペアトレーニングやグループワークを取り入れ、仲間と協力して体を動かす楽しさや喜びを経験し、運動に対する親しみをもてるようにする。
- ・視覚教材を活用し、動きのポイントを示し、分かりやすく伝える。また、自分の動きを客観的に見て、動きの改善に生かすようにする。
- ・新体力テストを分析し、個人で苦手としている種目を授業の補強運動で取り組むようにする。
- ・授業内の補強運動として、握力を補強できる運動に取り組む。
- ・SAQトレーニングやコーディネーショントレーニングを活用し、体の操作性を高め、50m走やハンドボール投げを強化する。
- ・持久走の単元では、インターバル走やビルドアップ走など心肺機能を高めることができるランニングメニューを取り入れる。
- ・各種目に関連する体力を高める運動を紹介し、体力の向上を図ろうとする意識を高める。
- ・体育理論、保健の学習では、穴埋め型のワークシートを用いて、基礎的、基本的な知識の定着を図る。
- ・アルティメットの単元を取り入れ、運動に親しみながらも、全身持久力の向上に取り組む。

第2学年 保健体育科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状

<定期考査や平成30年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活運動習慣等調査等からの分析>

- ・全体的に運動に対する関心は高く、昼休みは多くの生徒がサッカーなどで体を動かしている。
- ・自分自身の体力、技術向上に向けて意欲的に取り組んでいる。少数の生徒は、運動に対する苦手意識から消極的な面がある。
- ・授業内のペアトレーニングやグループワークでは、仲間とコミュニケーションをとり、互いに高め合う姿がよく見られる。
- ・意欲的に取り組む生徒が多く、授業のねらいを達成しようと努力する生徒が多い。
- ・授業の規律や集団行動を意識して行動できる生徒が多い。
- ・新体力テストでは、合計得点は全国平均より低く、東京都平均とほぼ等しい。測定種目の中では、「50m走」が低い傾向にある。また、都平均を下回っている上体起こし、反復横跳び、持久走も低い傾向にある。
- ・知識を問う問題では、昨年度に比べて、成果が出てきた。
- ・授業アンケートで、その日の授業で「何を学ぶのか」目標をもって、真剣に取り組んでいますかの質問に対して「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒が約23%いる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・体力技術向上に向けて、それぞれのレベルに合わせた目標を設定し、努力できる姿勢を育むこと。
- ・運動を苦手としている生徒が運動に対して親しみをもち、意欲的に運動に取り組むことができるようにすること。
- ・新体力テストの合計得点を全国平均と等しい、もしくは高くすること。
- ・低い傾向にある50m走を強化すること。スピードを向上させること。
- ・都平均を下回っている上体起こし、反復横跳び、持久走を強化すること。
- ・日々の授業に目的をもって授業に取り組むことができる姿勢を育てること。

4 具体的な授業改善策

- ・レベルに応じた練習環境や課題を設定し、生徒の達成率を数値化して、できることや成長したことを実感させ、次回の授業への意欲につなげる。
- ・ペアトレーニングやグループワークを取り入れ、仲間と協力して体を動かす楽しさや喜びを経験し、運動に対しての親しみをもてるようにする。
- ・視覚教材を活用し、動きのポイントを示し、分かりやすく伝える。また、自分の動きを客観的に見て、動きの改善に生かすようにする。
- ・SAQトレーニングやコーディネーショントレーニングを活用し、体の操作性を高め、50m走などのスピードを強化する。
- ・授業内の補強運動として、腹筋やスタビライゼーションなど体幹部を補強できる運動や反復横跳びに取り組む。
- ・持久走の単元では、インターバル走やビルドアップ走などを心肺機能を高めることができるランニングメニューを取り入れる。
- ・単元の目標、毎時の授業のめあてを板書、パソコン、カード等で明示する。
- ・授業の最後にまとめ・振り返りの時間を設定し、学習カードを活用して、その日の達成度や次回の授業へ向けての課題を確認できるようにする。
- ・アルティメットの単元を取り入れ、運動に親しみながらも、全身持久力の向上に取り組む。

第3学年 保健体育科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状

＜定期考査や平成30年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活運動習慣等調査等からの分析＞

- ・全体的に運動に対する関心は高く、昼休みは多くの生徒がサッカーなどで体を動かしている。
- ・自分自身の体力、技術向上に向けて意欲的に取り組んでいる。少数の生徒は、運動に対する苦手意識から消極的な面がある。
- ・授業内のペアトレーニングやグループワークでは、仲間とコミュニケーションをとり、互いに高め合う姿がよく見られる。
- ・授業の規律や集団行動を意識する態度が十分でない生徒がいる。
- ・新体力テストでは、合計得点は全国平均より低く、東京都平均とほぼ等しい。測定種目の中では、「上体起こし」が低い傾向にある。また、都平均を下回っている50m走も低い傾向にある。
- ・知識を問う問題では、昨年度に比べて、成果が出てきている。
- ・授業アンケートで、その日の授業で「何を学ぶのか」目標をもって、真剣に取り組んでいますかの質問に対して「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒が約20%いる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・体力技術向上に向けて、それぞれのレベルに合わせた目標を設定し、努力できる姿勢を育むこと。
- ・運動を苦手としている生徒が運動に対して親しみを持ち、意欲的に運動に取り組むことができるようにすること。
- ・授業規律や集団行動を意識して授業に取り組むことができること。
- ・新体力テストの合計得点を全国平均と等しい、もしくは高くすること。
- ・低い傾向にある上体起こしを強化すること。体幹部の筋力、筋持久力を向上させること。
- ・都平均を下回っている50m走を強化すること。スピードを向上させること。
- ・日々の授業に目的をもって授業に取り組むことができる姿勢を育てること。

4 具体的な授業改善策

- ・レベルに応じた練習環境や課題を設定し、生徒の達成率を数値化して、できることや成長したことを実感させ、次回の授業への意欲につなげる。
- ・ペアトレーニングやグループワークを取り入れ、仲間と協力して体を動かす楽しさや喜びを経験し、運動に対する親しみをもてるようにする。
- ・視覚教材を活用し、動きのポイントを示し、分かりやすく伝える。また、自分の動きを客観的に見て、動きの改善に生かすようにする。
- ・単元のはじめのオリエンテーションで、授業内で留意すべき事項を具体的に示し、授業規律を徹底させる。
- ・授業内の補強運動として、腹筋やスタビライゼーションなど体幹部を補強できる運動に取り組む。
- ・SAQトレーニングやコーディネーショントレーニングを活用し、体の操作性を高め、50m走などのスピードを強化する。
- ・アルティメットの単元を取り入れ、運動に親しみながらも、全身持久力の向上に取り組む。
- ・単元の目標、毎時の授業のめあてを板書、パソコン、カード等で明示する。
- ・授業の最後にまとめ・振り返りの時間を設定し、学習カードを活用して、その日の達成度や次回の授業へ向けての課題を確認できるようにする。

